

移住者と連帯する全国フォーラム・東京 2019

多民族・多文化共生社会

~いっしょに考え、ともにつくろう~



サヘル・ローズさん



矢野デイビットさん

で　あ　か　ん
出　会　う　、　感　じ　る

た　み　ん　ぞ　く
た　ぶ　ん　か　き　ょう　せ　い　し　や　か　い

か　ん　が
～い　っ　し　ょ　に　考　え　、　と　も　に　つ　く　ろ　う　～

2019年 6月1日(土) ~ 2日(日)

日本教育会館 (東京都千代田区一ツ橋 2-6-2)

*最寄駅：神保町駅 徒歩5分 / 竹橋駅 徒歩5分 / JR 水道橋駅 徒歩15分

《プログラム》

6月1日(土) 受付 12:45- / 13:15 ~ 17:00

13:30 ~ ダイアローグ

「わたしたちは ここにいる ~多民族・多文化共生社会の今、そしてこれから」

メインスピーカー サヘル・ローズさん (タレント・女優)
矢野 デイビットさん (タレント・ミュージシャン)
ファシリテーター グレンダ・ロバーツさん (早稲田大学大学院教員)

15:15 ~ 分科会

入門編 / 女性 / 技能実習 / 労働 / 医療・福祉・社会保障 / 子ども・若者 /
難民 / 収容・仮放免 / 自治体施策 / 反貧困 / ヘイトスピーチ・人種差別 / LGBT
ビジネスと人権 (サプライチェーン) / ミックスルーツ / 日本語教育

6月2日(日) 受付 8:45- / 9:30 ~ 11:45

9:30 ~ 「どうなる、どうする移民政策」

*どなたでも、ご参加いただけます。

*参加費：一般 3,000円、学生・高校生 2,000円

*プログラムは諸事情で変更になることもあります。
詳細は、WEBでご確認ください！

賛同団体・賛同金募集中！

【主催】移住者と連帯する全国フォーラム・東京 2019 実行委員会

【共催】特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク SMJ

事務局・問い合わせ先

〒110-0005 東京台東区上野1-12-6 3階 移住連携付

移住者と連帯する全国フォーラム・東京 2019 実行委員会

Tel : 03-3837-2316 Fax : 03-3837-2317 E-mail : tokyoforum2019@migrants.jp

<http://tokyoforum2019.migrants.jp>



移住者と連帯する
全国フォーラム
東京 2019

出会う、感じる多民族・多文化共生社会

サヘル・ローズさん

(女優・タレント・キャスター)

1985年、イラン生まれ。幼少時代を孤児院で過ごし、8歳で養母と来日。様々な苦難を乗り越えながら、高校時代から芸能活動を始め、J-WAVEでラジオDJデビューし、女優、タレント、キャスターとしてTV、ラジオ、映画、舞台と活動中。日本語、ペルシャ語、ダリー語、タジキ語を話し、趣味・特技はテニスや絨毯織りと多彩。主演を務めた「冷たい床-Cold Feet-」では様々な国際映画祭で正式出品され、主演女優賞にノミネートされるなど、女優としても幅広く活動を展開。

芸能活動以外にも、国際人権NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動で親善大使を務め、児童養護施設や里親制度に関わる講演会に招聘されるなど、講演のテーマは多岐に渡る。

また、日本の施設への支援活動など、自らの取り組みが認められ、2018年、第9回若者力大賞（社会をより良くするため活躍する若者に送られる賞）を受賞。夢はイランに児童養護施設をつくることで、同じ境遇に苦しんでいる施設の子どもたちを支援し、子どもたちに夢を与えようとしている。

矢野 ディビットさん

(歌手・シンガーソングライター・

Enije 代表・明星大学客員講師)

日本人の父とガーナ人の母との間にガーナで生まれる。6歳の時、ガーナで集団強盗に一家が襲われたことをきっかけに日本へ移住。8歳～18歳まで児童養護施設で育つ。学生時代からモデルやCMの仕事を始め、その傍ら、好きだったピアノを通して音楽活動を行う。

現在ではソロ活動のほか、元Jリーガーで作詞作曲家の兄と、薬剤師の弟とのヴォーカルユニットYANO BROTHERSとしてもライブ活動を展開。NHK・Eテレ「ハートネットTV」、日テレ「チカラウタ」などにも出演。25歳の時、ガーナでのあるストリートチルドレンとの出会いをきっかけに「誰にも守ってもらえない子供たちを守りたい」という想いを抱く。自立支援団体Enijeを設立。2012年に一般社団法人化し、教育を柱にガーナで学校建設や教育する側の教育、運動会やサッカー大会を行いながら支援を続けている。支援とは自尊心を育てる事という信念のもと、現地のコミュニティーと自立に向けた活動を行う。また国内では楽しんだ代価をチャリティーにする味の素スタジアムでのチャリティーフットサルイベント等を主催。

2019年6月1日(土)と2日(日)、 20年ぶりに東京で全国フォーラムを開催します！

- 東京オリンピック・パラリンピック2020開催を前に、人権が尊重される社会の実現に向けた取り組みを日本社会、世界へ発信します。
- 東京を中心とした関東圏の多民族・多文化共生社会に関わる個人や団体のネットワーク作りを目指します。
- 「移民社会を支えるための提案（仮称）」を日本社会に発信します。

第二次安倍政権発足以降、成長戦略の名のもとに「外国人材の活用」が推進され、2019年4月には、外国人労働者の新たな受け入れが予定されています。その一方で、「移民政策ではない」という主張を堅持する現政権は、すでに日本で暮らし、働き、学んでいる移民・外国人の存在に真摯に向き合うことなく、それゆえ、移民・外国人の権利保障や民族的・文化的アイデンティティの尊重、差別禁止など、共に生きるための法的基盤は未整備のままでです。

しかし、実際には、すでに日本は移民社会です。2018年6月末現在の在留外国人数は2,637,251人。敗戦後のサンフランシスコ講和条約発効の1952年4月から2017年までに日本国籍を取得した外国人は累積550,715人。1987年から2017年までに生まれた外国ルーツの日本人は累積610,344人。2017年に日本で生まれた外国人は16,666人——。日本は、確実に多民族・多文化社会になっています。私たちは友人であり、同僚であり、クラスメートであり、隣人であり、そして家族です。

世界各国から多様な人々を迎える2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を前に、まずは「ここにいる」多様な人々の存在に目を向け、多様な人々の思いや状況を理解することで、共に生きる社会をつくっていく必要があるのではないでしょうか。そのためには、一人ひとりが心を拓き、「日本人」を中心とした社会制度を見直す必要があるでしょう。政府が背に向いているのであれば、私たち市民の手で移民政策をつくっていかなければいけません。

そのような強い思いから、移住者と連帯する全国フォーラム・東京2019を開催することにしました。

共同代表

アンジェロ・イシ

(在東京ブラジル総領事館市民代表者会議評議員／武藏大学教授)

金 竜介

(弁護士／在日コリアン弁護士協会)

鈴木 江理子

(移住者と連帯する全国ネットワーク副代表理事／国士館大学教授)

鈴木 雅子

(弁護士／全国難民弁護団連絡会議世話人)

西川 晋司

(東京都労働組合連合会執行委員長)

枡木 典子

(認定NPO法人 多文化共生センター東京代表理事)

平野 敏夫

(亀戸ひまわり診療所理事長／全国労働安全衛生センター連絡会議議長)

事務局長

渡戸 一郎

(明星大学名誉教授／東京ボランティア・市民活動センター運営委員長)

